■吉雄耕牛(幸作)　　**オランダ通詞。長崎の家塾に全国から来訪・入門者，「解体新書」の序など，多方面に大きな影響を与えた。**
よしおこうぎゅう
近松没・・・1724＝　　長崎で，**_通詞品川家から名門吉雄家の婿養子となった藤三郎の子に生まれる。**

梅岩心学始・1729＝ 5歳：この年，父が，で，大通詞今村英生のケイゼル御用に従い，江戸に出，
・・・・・・1730＝ 6歳：この年，御馬仕入で，銀五枚拝領し，長崎に帰着後，小通詞に任命される。

享保大飢饉・1732＝ 8歳：
・・・・・・1733＝ **9歳：**

・・・・・・1736＝12歳：この年，今村英生が死去。
・・・・・・1737＝13歳：**_稽古通詞に任命される。**
・・・・・・1738＝14歳：この年，父が大通詞に任命され，阿蘭陀遣用商売支配加役となる。

・・・・・・1741＝17歳：この年，**_父が江戸番大通詞となり，将軍吉宗から翻訳を命じられた野呂元丈の「阿蘭陀禽獣錨魚図和解」「醉阿蘭陀本草之内御用ニ付承合候和解」をサポート。**
公事方御定書1742**＝18歳：**この年，弟作次郎が稽古通詞に任命。**_父が退役し，平戸町の自邸で死去。小通詞に任命され，年番加役。**
・・・・・・1743＝19歳：江戸番小通詞。
徳川吉宗隠居1745＝21歳：
菅原伝授十・1746＝22歳：年番小通詞。
義経千本桜・1747＝23歳：江戸番小通詞。
忠臣蔵・・・1748＝24歳：***異例の速さで，大通詞に任命され，年番大通詞。**
・・・・・・1749＝25歳：江戸番大通詞。

徳川吉宗没・1751**＝27歳：**年番大通詞。
・・・・・・1752＝28歳：江戸番大通詞。

_この間，オランダ商館の蘭医に就いて，医術の伝授も受け，

・・・・・・1756＝32歳：年番大通詞。
源内物産会・1757＝33歳：江戸番大通詞。
宝暦事件・・1758＝34歳：この年，弟作次郎が小通詞末席となる。

大岡忠光没・1760**＝36歳：**年番大通詞。**_この頃，蘭医パウエルを専ら師としたと伝えられる。**
・・・・・・1761＝37歳：江戸番大通詞。
・・・・・・1762＝38歳：長崎に滞在の永冨独嚼庵が来訪。

千代女句集・1764＝40歳：年番大通詞。
錦絵始・・・1765＝41歳：江戸番大通詞。**_杉田玄白・中川淳庵を同伴して，長崎屋に来訪した平賀源内に，アラキブルートル・タルモメートル(寒暖計)を見せる。**
忠臣蔵大当り1766＝42歳：この年，弟作次郎が小通詞並。
久留米藩工事1768＝44歳：年番大通詞。
・・・・・・1769**＝45歳：**江戸番大通詞。**_杉田玄白にヘーステル外科書を貸して，玄白が入門し，この年，前野良沢が長崎遊学。**
・・・・・・1770＝46歳：***平賀源内に阿蘭陀本草を教授するなど，所蔵する多数の蘭書の翻訳講義で，入門する者引きも切らず，**
御蔭参流行・1771＝47歳：この年，弟作次郎が小通詞助役。通詞吉雄家の「由緒書」を書く。
田沼意次老中1772＝48歳：年番大通詞。弟作次郎も年番。遭難蘭船五嶋漂着一件を担当。
大原騒動・・1773＝49歳：江戸番大通詞。弟作次郎も江戸番。**_「解体新書」に序文を寄せる。**
解体新書・・1774＝50歳：**_御内用方通詞に任命される。**
黄表紙始・・1775＝51歳：この年，**_長崎入りした新オランダ商館長ツユンベリーの資料蒐集に全面的に協力し，**
雨月物語刊・1776＝52歳：この年，ツユンベリー若沢事件。年番大通詞。**_梅毒の水銀水療法を伝授され，以後，財産を築くとともに，玄白らを介して普及して行く。**
・・・・・・1777＝53歳：江戸番大通詞。
ﾛｼｱ船蝦夷来 1778**＝54歳：_三浦梅園が来訪するなど，自邸はオランダ座敷として，諸人の関心を惹き，**

・・・・・・1780＝56歳：年番大通詞。
・・・・・・1781＝57歳：江戸番大通詞。
天明大飢饉始1782＝58歳：**_黒人蔵破事件があり，急度叱。松浦静山にケンペル「日本誌」譲与。**
蘭学階梯・・1783＝59歳：野村立栄に「免状」「吉雄家学之秘条」を授与。
意知刺殺事件1784＝60歳：年番大通詞。
蝦夷初調査・1785＝61歳：江戸番大通詞。
田沼意次失脚1786＝62歳：この年，**_長崎に遊学してきた大槻玄沢が吉雄邸のオランダ正月に出席。**
寛政改革始・1787**＝63歳：**
・・・・・・1788＝64歳：春木南湖が来訪。本木仁太夫良永と共に「阿蘭陀永続暦和解」。**_司馬江漢が来訪し，肖像を描いてもらう。**
初の横綱・・1789＝65歳：江戸番大通詞。
異学の禁・・1790＝66歳：***この年まで御内用方兼帯し，最高位の阿蘭陀通詞目付になるが，寛政の改革で，慣習となっていた貿易の処理が罪に問われ，三十日間戸締後，入牢，出牢するも，町預となり，**
混浴禁止・・1791＝67歳：**_業務に支障をきたしたオランダ商館長らの幕府への宥免願いも認められず，五カ年蟄居となるが，**
松平定信引退1793＝69歳：
写楽・・・・1795＝71歳：**_その語学力を必要とされ，「魯使北京紀行」翻訳に従事。**
ﾌﾞﾛｰﾄﾝ来航・1796**＝72歳：_蟄居を赦されると，**
昌平黌始・・1797＝73歳：**_初の蛮学指南に命ぜられて，三人扶持となったが，**

伊能測量始・1800＝76歳：平戸町の自宅で，**_病没した。**
きわめて多数の蘭書を翻訳しながら，生前に刊行されたものは皆無。

片桐一男「江戸の蘭方医学事始」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，「本朝医人伝」，「目でみる日本人物百科」，